

4月～7月 (播種期・管理期)

- 雪解け後、畑の準備
土壌改良剤、堆肥やスラリー
散布、心土破砕など
- 種まき
馬鈴しょ、豆類、そば、
ながいも
- 移植
てん菜、キャベツ
- 種子馬鈴しょの抜き取り
病気や異常な株を目視で
判断し抜き取る
- 草取りや野良芋退治
前年に掘り残した馬鈴しょ
(野良芋)の除去
- 防除作業
除草剤や病気にならない
ように薬剤散布

8月～11月 (収穫期)

- 収穫
キャベツ、小麦、馬鈴しょ、てん菜、
大豆、小豆、そば、ながいも
- 種まき
だいこん、小麦
- 馬鈴しょ選別・出荷
- そば製粉
乾燥～製粉～販売
- だいこん加工
収穫～洗い～刻み～乾燥～販売

12月～3月 (休閑期)

- そば製粉
製粉～販売
- だいこん加工
洗い～刻み～乾燥～販売
- 事業反省・計画
経過年の反省をもとに次年度の
計画樹立
- 春に向けて準備
- てん菜播種
ハウス内でペーパーポットに
種まき



Interview

自然の中で働くことの心地良さ。
農業に就職して得られたものは
想像以上に大きい!

あきら
原田 暁 さん



出身は帯広市。関東の大学に進み、卒業後、営業職として9年ほど働いた。帰省する度に帯広の気候や雰囲気が好きで、いつかは戻ってこようと思っていました」と話すのは、入社2年目の原田暁さんだ。数年前に帯広に戻り、営業職に就いたがどこかに違和感があった。

「ある日、一日だけ農業のアルバイトをしてみたいです。草刈りや収穫をしながら感じたのは、空気が澄んでいて、屋外での仕事は心が落ち着くこと。農業は自分に合っているかも」と思い始めました。そんな時、西上経営組合の募集を知り、経営理念や条件がしっかりしていることから就職することにしました」
現在の主な仕事内容は、農作業全般と機械を使った収穫物の運搬など。雨の日は車両や機械の洗浄

1日の流れ

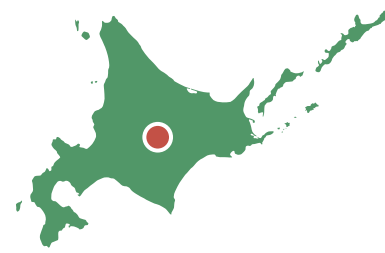
- 8:00～8:30 出社・朝礼(1日のスケジュールチェック)
- 8:30～12:00 畑作業(キャベツの収穫補助)
- 12:00～13:00 昼休み
- 13:00～14:00 重機(ショベル)のメンテナンス作業
- 14:00～16:30 畑作業・キャベツの収穫(ハーベスターのオペレーター)
- 16:30～17:00 片付け作業
- 17:00 退社

[休日] 4～11月 第2、4、5日曜日 / 12～1月 土曜午後、日曜日

02

農事組合法人
西上経営組合

鹿追町



みんなが豊かになるために
地域農業の未来をつなぐ

鹿追町にある「農事組合法人西上経営組合」は、1975年、地域農業を守ろうと8戸の農家で設立された。現在は構成員9戸で構成員の家族を含む24人の従業員で、馬鈴しょ、小麦、てん菜、大豆、加工用キャベツなど10品目以上を生産している。組合長理事の菅原謙二さんは語る。「設立当初から、就職希望者は全道から集まってきています。農業後継者が研修目的で就職したり、新規就農を目指して就職したり、と目的はさまざまです」

今年で設立50年を迎える農事組合法人の草分け的存在だが、「農の未来」に向けての取組も多い。これまでに培ってきた栽培技術を基本に、スマート農業や、環境負荷の低減に向けて化学肥料の減肥や化学農薬を減らすなど、これらの技術を学びたいと入社してくる人も多いそうだ。

入社後には、農作業に必要なけん引免許など資格試験の助成制度や、関係機関が主催する研修会への参加手当を支給するなど、キャリアアップ支援にも力を入れている。経営感覚を身につけ、将来の独立を目指す土壌が整っている。

経営理念には、「私達は地域農業のトップランカーとなり共存同業の精神を持って関わる人々を豊かに

します」とある。誰かだけが飛び抜けて利益を享受するのではなく、経営の成長による「会社良し」、待遇向上による「社員良し」、安心・安全な農産物による「顧客良し」の「三方良し」を目指し、農業生産活動に誇りを持って走り続けよう、という意味が込められている。さらに、「10年ビジョン」も策定し、「農を地域の価値ある産業にする」「次世代に続く子どもたちのために『母なる豊かな大地を守り育む』」など4つのビジョンを掲げている。

地域農業を守るべく立ち上がった西上経営組合。従業員一人ひとりの未来を考え、そして農業を通して地域の未来を繋いでいくために成長を続けている。



関わる人が多く「ネットワーク」が広がりやすいところも、農業法人ならではの特徵と話す組合長理事の菅原さん。